

予防接種について

<ロタウイルス>

金沢市の乳幼児期に受ける定期予防接種

(2020年10月1日現在)

乳幼児期の予防接種		受ける時期と接種回数	ワクチン種別
ロタウイルス	ロタリックス	出生6週0日後から24週0日後まで(初回接種については、標準として生後2か月から出生14週6日後まで)に27日以上の間隔を置いて2回経口投与	生ワクチン(経口)
	ロタテック	出生6週0日後から32週0日後まで(初回接種については、標準として生後2か月から出生14週6日後まで)に27日以上の間隔を置いて3回経口投与	
Hib (インフルエンザ菌b型)	初回	【標準的な接種パターン】 生後2か月～7か月の前日までに接種開始の場合 初回: 27日(医師が認める場合は20日)以上(標準として27日～56日)の間隔をあけて3回接種(生後12か月の前日までに完了) 追加: 初回3回終了後、7か月以上(標準として7か月～13か月)あけて1回接種(注)	不活化ワクチン
	追加	【標準的な接種パターン以外の場合】 ①生後7か月～1歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 初回: 27日(医師が認める場合は20日)以上(標準として27日～56日)の間隔をあけて2回接種(生後12か月の前日までに完了) 追加: 初回2回終了後、7か月以上(標準として7か月～13か月)あけて1回接種(注) ②1歳の誕生日～5歳の誕生日の前日までに接種開始の場合: 1回接種	
小児用肺炎球菌	初回	【標準的な接種パターン】 生後2か月～7か月の前日までに接種開始の場合 初回: 27日以上の間隔をあけて3回接種(生後24か月(標準として生後12か月)の前日までに完了) 追加: 初回3回終了後60日以上の間隔をあけて、生後12か月以降に(生後12か月～15か月の前日までを標準的接種期間として)1回接種(注)	不活化ワクチン
	追加	【標準的な接種パターン以外の場合】 ①生後7か月～1歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 初回: 27日以上の間隔をあけて2回接種(生後24か月(標準として生後12か月)の前日までに完了) 追加: 初回2回終了後60日以上の間隔をあけて、生後12か月以降に1回接種(注) ②1歳の誕生日～2歳の誕生日の前日までに接種開始の場合 60日以上の間隔をあけて2回接種 ③2歳の誕生日～5歳の誕生日の前日までに接種開始の場合: 1回接種	
B型肝炎		1歳の誕生日の前日まで(標準として生後2か月～9か月になるまでに)に27日以上の間隔を置いて2回接種した後、1回目の接種から139日以上の間隔を置いて1回接種	不活化ワクチン
ジフテリア百日せき不活化ポリオ破傷風(DPT-IPV)	1期初回	生後3か月～90か月(7歳6か月)の前日までに 初回: 20日以上(標準として20日～56日)の間隔をあけて3回接種 追加: 1期初回(3回)終了後、6か月以上(標準として1年～1年半)あけて1回接種	不活化ワクチン
	1期追加		
BCG		1歳の誕生日の前日まで(標準として生後5か月～8か月になるまでに)に1回接種	生ワクチン
麻しん風しん(MR)	1期	生後12か月～24か月(2歳の誕生日の前日)までに1回接種	生ワクチン
	2期	小学校就学前1年間(幼稚園等の年長さん相当の年齢)にある間に1回接種 ※別途個別に通知します。	
水痘		生後12か月～36か月(3歳の誕生日の前日)までに3か月以上(標準として6か月から12か月まで)の間隔をあけて2回接種 ※1回目の標準的な期間は、生後12か月から生後15か月になるまでです。	生ワクチン
日本脳炎	1期初回	生後36か月(3歳※)～90か月(7歳6か月)の前日までに ※標準的な接種開始時期は3歳です。生後6か月から接種可能です。 初回: 6日以上(標準として6日～28日)の間隔をあけて2回接種 追加: 1期初回(2回)終了後、6か月以上(標準としておおむね1年)あけて1回接種	不活化ワクチン
	1期追加		

(注) Hibワクチンおよび小児用肺炎球菌ワクチンは、接種開始年齢等によって接種回数が異なります。接種回数、間隔などは接種医とよくご相談ください。その他、任意予防接種として、おたふくかぜ、インフルエンザなどがあります。

周知方法

個別通知

接種場所

予防接種協力医療機関

接種時期

通年

ロタウイルス胃腸炎とは？

ロタウイルスによって引き起こされる急性の胃腸炎で、乳幼児期(0～6歳頃)にかかりやすい病気です。感染力が強く、ごくわずかなウイルスが体内に入っただけで感染します。ふつう、5歳までにほぼすべての子どもがロタウイルスに感染するといわれています。大人はロタウイルスの感染を何度も経験しているため、ほとんどの場合、軽い症状で済むか症状が出ません。しかし、乳幼児は、激しい症状が出ることも多く、特に初めて感染したときに症状が強くなります。主な症状は、水のような下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛です。脱水症状がひどくなると点滴が必要となったり、入院が必要になることがあります。5歳までの急性胃腸炎の入院患者のうち、40%～50%前後はロタウイルスが原因です。ロタウイルスワクチンの接種を受けることで重症化予防にも効果があるとされています。

ロタウイルスワクチン

ロタウイルスワクチンは2種類あり、同様の効果があります。2回接種を受けるものと3回接種を受けるものがあります。同じワクチンで決められた回数の接種をしましょう。初回接種については、標準として生後2か月から出生14週6日後までに行います。出生15週0日後以降に初回接種を受けることはおすすめしていません。

なお、接種後に吐き出した場合でも再投与は必要ありません。少量でも飲み込んでいれば一定の効果はあることや、ロタウイルスワクチンは複数回接種することになっており、一連の接種で効果が期待できることなどから、吐き出した場合でも1回の接種と考えてください。

ワクチン名	ロタリックス	ロタテック
対象年齢	出生6週0日後から24週0日後まで	出生6週0日後から32週0日後まで
接種回数・間隔	2回接種(27日以上の間隔をあける)	3回接種(27日以上の間隔をあける)

*「出生〇週〇日後」とは、出生日の翌日を出生〇週1日後として算出した日をあらわします。

* 以下のお子さんは、定期予防接種の対象とはなりません。

- ・過去に腸重積症を発症したことがあるお子さん
- ・先天性消化管障害のあるお子さん(その治療が完了したお子さんを除く)
- ・重症複合免疫不全症の所見が認められるお子さん

副反応(腸重積症)について

腸重積症とは、腸の一部が隣接する腸管にはまり込む病気です。腸の血流が悪くなることで腸の組織に障害を起こすことがあるため、速やかな治療が必要です。ワクチンの接種に関わらず、生後3か月～2歳くらいまでの赤ちゃんがかかりやすい病気です。ワクチン接種後(特に初回接種後)、1～2週間くらいの間には腸重積症のリスクが通常より高まると報告されています。次のような様子が一つでも見られるときは、医療機関を受診しましょう。

- 突然激しく泣く
- 機嫌が良かったり不機嫌になったりを繰り返す
- 血便がでる
- 嘔吐する
- ぐったりして顔色が悪い